

沖縄復帰 50 年

平和な島はいつか？戦争への危機！

沖縄の本土復帰から 50 年。いまだに米軍基地はなくなり、それどころか在日米軍基地の設置割合は復帰時 58.8%が現在 70.3%に増加し沖縄にしわ寄せが・・・

玉城沖縄知事は「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」のなかで 50 年前の建議書の内容がほとんど実現されていないと課題を提起しています。

I) 沖縄の本土復帰において「沖縄を平和の島とする」ことが沖縄県と政府の共通目標であることを改めて確認し・・・50 年前

の『復帰措置に関する建議書』に掲げられた“地方自治の確立”“反戦平和の理念を貫く”“基本的人権の確立”“県民本位の経済開発”等の考えを尊重し自立型経済の構築及び「基地のない平和な島」の実現に一層取り組む。

II) 沖縄県民総意の米軍基地からの“負担軽減”を実行するよう求める建白書の趣旨も踏まえ、在沖米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本的見直し、事件・事故等の基地負担の軽減、普天間飛行場の速やかな運用停止、辺野古新基地建設の断念、構造的差別的沖縄の基地問題の早期解決を。

III) 民主主義や地方自治について正当な手続きにより示された民意や地方公共団体が自らの判断と責任で行政を運営するという原則を尊重し・・・

IV) 平和的な外交・対話により緊張緩和と信頼醸成を図ることで同地域の平和の構築に寄与する。・・・独自の歴史や多様性を持つ沖縄を最大限活用する。 と。

5 月 15 日沖縄と東京で 50 周年の式典が行われたが、東京日比谷公園では「沖縄一坪反戦地主会関東ブロック」主催のデモが日比谷～銀座～東京駅までのあいで行われました。(2022 年5月 15 日)



デモ出発前、山城博治さんから日米政府・軍事一体になって沖縄が再び戦場になるような沖縄への軍事的しわ寄せの施策が続けられていること、それが日本の戦争国家そのものになってしまうと、危険性が訴えられました。

「50 年前沖縄の地で雨の中訴えていた。50 年の節目に沖縄でなく今日東京に来たのは一番危険なのが東京だから。国会の中の人々が一番危ないのでそのことを言いたくて来た。」と。

「政府はこれまで基地を押し付けただけでなく、“中国脅威”“台湾有事”を言い、沖縄が戦場になるのが当然といっている。フザケルナ!」「何度、何度虫けらのように私たちの命を奪い、東京が生き延びるのか」

「沖縄を再び戦うことになるようなことをやめよう。沖縄が戦うようになることはこの国



自体が戦争国家になること。戦争体制になることです。戦争国家になることをとめよう
「戦争しないで解決する道はあるでしょう。戦争反対だ。」

「中国が侵攻する。ロシアが侵攻すると言っているが、中国が今の世界の経済大国になるため“一带一路”と汲々としているのに戦争を仕掛けるわけがない。“台湾有事”は米国の謀略だ。その言葉に乗って国民をだまし戦争体制を作ろうとする岸田政権は許せない」

「ロシアは怖い、中国は怖いと言っているが米国に反対したら同じようにやられるぞと脅しているのだ。バイデンの言葉によって沖縄で戦うことになれば、米兵はウクライナと同じように戦わない。自衛隊がやらされる。そして米兵は遠くにいる。反撃を食らうのは沖縄の人々だ。」「こんな日米安保は地獄の安保だ」と米国の世界軍事戦略にのめり込む沖縄・南西諸島のミサイル基地建設の危険性を訴えました。



最後に「戦争をさせない、軍事国家にしていけない、日本国憲法を変えない人を参議院へ送ろう。大同団結してがんばろう!」と訴え“今こそ立ち上がれ!今こそ奮い立とう..”と参加者と一緒に力強く歌いました。

参加者 650 人は公園から銀座～東京駅に向かってデモ。“軍隊は住民を守らない”
“軍事基地は出て行け”“辺野古新基地建設をやめろ!”“普天間すぐ返せ”と訴えました。



沖縄返還 50 年。沖縄が“平和主義・民主主義・自治権のある日本国憲法”の日本に復帰と思ったら、“日米安保条約(従属的な日米地位協定)”の下に、在日米軍基地の集約地とされ、辺野古新基地建設問題では沖縄県民の数度にわたる「NO」の民意をまったく聞き入れない自治権もない米軍統治下と同じ状態・・・

これって日本の戦後民主主義・安全保障の赤裸々な実態が沖縄に現れ、それを覆い隠すような本土・沖縄の差別構造の上に 77 年間本土(日本)国民は安住しているのでは・・・だから軍事費 GDP2%・核共有論・敵基地攻撃能力保有・憲法『改正』などのノウテンキなことを言ってるのでは。

一人一人の平和主義を問い直し「一歩」を踏み出しましょう。

“殺すな!” 沖縄を戦場にするな! ” 命どう宝 ”

*「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 445-9144